

奄美・種子屋久地方

かごしまの離島はとにかくおもしろい

鹿児島県は離島が多く、離島面積は約2500km平方メートルで全国第1位、離島の人口も約18万2千人でこれまた全国第1位です。それだけに文化や表情も変化に富み、訪れるたびに新たな発見があること間違いなしです。

奄美地区

サトウキビから黒糖への進化を目撃

サトウキビの収穫を12月～3月の冬期に行い、1月～5月にかけて黒糖づくりをします。製法のあらまはサトウキビを圧搾機にかけ、絞り汁を3段階に分けて加熱濃縮し冷却すると固まっていきます。この黒糖の塊を食べやすい大きさに切り砕いて出来上がりです。黒糖作りの工程は、初めて見る作業の連続で時間の経つのも忘れるでしょう。体験としては最終段階の黒糖の塊のカット作業や袋詰めがあります。



西田 和子さん



オススメ あんきやば 安脚場戦跡

大島海峡を挟んで奄美大島本島の南側に位置する加計呂麻島。その東端に位置する安脚場は、太平洋戦争時砲台が設置されました。今は基地の一部が公園として整備されて、弾薬庫跡などを見ることができます。



種子島地区



命の尊さを学ぶ鯨島牧場

80頭の乳牛を伸び伸びと育てています。朝夕の仔牛への授乳、成牛への餌やりの時間帯は大忙しです。そんな中でも哺乳瓶をくわえてグイグイ飲む仔牛の姿は本当にかわいいです。毎日体重の1割の餌を食べる成牛には、なんと1日2トンの乾燥草を準備します。私達に美味しい牛乳を飲ませてくれることに感謝しながら、一緒に牛さんのお世話をしましょう。「おじゃったもんせ! 種子島」



鯨島 安平さん



オススメ 種子島宇宙センター

日本で唯一ロケット発射施設のある鹿児島県。種子島宇宙センターからは技術試験衛星や地球観測衛星などの実用衛星が打ち上げられています。また周辺の海岸線も美しく世界一美しい基地といわれています。



与論地区



サトウキビ畑で豆づくり

2年前、さとうきび畑の一区画をインゲン畑に変えました。与論産のインゲンは柔らかくて香りがよいと評判です。多分、強い日差しの中で育つからでしょう。この作物の特徴として植付けから収穫までが2カ月と短く、収穫期間が12月から5月と長いことです。次から次にさやが育つので毎日の摘み取りが大変です。風除けのネットの中はちょっと狭いですが風に揺れるさとうきびの“ざわつき”でも聞きながらのんびりやりましょう。



沖 攝さん

オススメ 与論城跡

14～15世紀頃、琉球の北山王の三男王舅（オーシャン）が与論島主として島を治めていたが、与論城を築城中に王朝が滅亡したため未完成のまま残っているもの。サンゴで作られた石垣は地面に伏せて島を守る龍の姿をかたどって作られたという。

